

問 環境基本条例制定の経緯・背景は

答 環境軽視では行政運営が成り立たない



伊藤まゆみ議員

中心に良好な生活環境の保全と創造、地域の活性化、生活環境・田園景観との調和。最終的には安定した雇用の創出が目標と考える。

【環境・景観について】

問 開発基本条例を見直し、環境基本条例を制定するに至った経緯、背景は。

村長 オリンピックを契機とした環境問題への関心が高まる中、美しい自然環境を有する当村でも、環境問題を軽視しては今後の行政運営が成り立たないこと。滑降競技において、八方尾根のスタート問題についても大きな関心が寄せられるなどし、条例に取り組むことが最善と認識したため。

問 昨年6月議会一般質問の答弁中の「優良な開発計画や施設投資計画」とは。

村長 条例・規則・指導基準を遵守すること。行政区を

問 観光施策・観光局について

今回観光局は新しい局長を迎えることになったが、どのような観光施策、方向性が期待できるか。

村長 局の改革、観光関係の正確な数値の把握、インバウンドの通年化、社員の増加、マーケティング、振興公社との連携、春秋の商品開発など、期待するところはとても大きい。

問 審議会は「環境の保全及び景観の形成に関して、基本的事項を調査、審議すること」が目的であるが、利害関係者が委員である場合、客観的な審議が可能か。

村長 直接的に利害関係があるかと認められる場合、審議から外れてもらう。

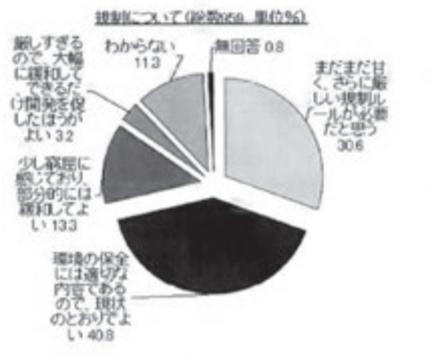
問 【財源について】

3月議会で可決された議員・特別職の報酬、職員給与の増額分、416万円の財源は。

村長 基本的には一般財源。地方交付税の算定の中に給与に要する経費も含まれている。

村長 ところが今までと違うのか。いろいろな方の意見を聞き、計画に取り入れていくという点。

課長 観光課 経営の視点を取り入れ、計画を実行に移すプロセスまで加味している。また、今後10年の第5次総合計画に落とし込んでいくために練り直したものである。



○「環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい」が40.8% (391人)と最も多く、次いで、「まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う」30.6% (293人)、「少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい」13.3% (128人)などとなっています。これに対し、「厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい」は3.2% (31人)と少数です。

Ⅲ 白馬村の開発規制について

問10 白馬村は、自然環境や景観が村の財産であるという考えから、開発のルールや建築物・屋外広告物のルールを他の地域より厳しい内容で定めています。この村の環境行政についてどのように感じていますか？（該当するもの1つ）

| | 回答数 | 割合(%) |
|----------------------------------|-----|-------|
| まだまだ甘く、さらに厳しい規制ルールが必要だと思う | 293 | 30.6 |
| 環境の保全には適切な内容であるので、現状のとおりでよい | 391 | 40.8 |
| 少し窮屈に感じており、部分的には緩和してよい | 128 | 13.3 |
| 厳しすぎるので、大幅に緩和して、できるだけ開発を促したほうがよい | 31 | 3.2 |
| わからない | 108 | 11.3 |
| 無回答 | 8 | 0.8 |
| 回答者総数(%ベース) | 959 | 100 |

誰のために規制緩和が必要なのか
緩和を望むのはたった3.2% (第5次総合計画策定アンケート)